

在校生の皆様へ

医療法人仁和会 埼玉江南病院 費田 祐介（看護学科第27期生）

学校生活は容易ならぬものでしたが、その分多くのことを学び、社会人としても成長させて頂きました。特に熱心に指導頂いた「個別性のある看護」は、今でも大切にしています。



1年目は、教務や臨床の臨時講師の先生方の専門講義。臨床の話は、緊張感を持ちながら分かりやすく興味をもって受講できました。しかし、仕事をしながらの生活で疲労との戦い。2年目は講義だけでなくテストも増え、実習も始まりました。海外研修では、オーストラリアの医療現場や施設など見学し、貴重な体験ができました。しかし、レポート課題も数多く。3年目は実習や課題。専門領域の実際の現場に想像を膨らませながらも、各論実習が始まると現実の厳しさを実感。その中で国家試験の勉強と忙しい日々。中身の濃い3年間であり、決して楽な道のりではなかったと記憶しています。

当時私は、単位を落としてしまったらどうしようという不安が常にありました。乗り越えられたのは、努力を見ていて下さった先生方や、様々な理由の中、資格を取ると同じ目標を持った仲間たちの支えのおかげでした。その存在は大きく、今でも私を鼓舞する原動力になっています。実習など、自身で気づかない気づきや、1人で抱えず仲間と共有することの心強さ、患者様の個別性を考える上でも何度も助けられてきました。深刻化する医療従事者の人手不足は、実際の現場ではよりそれを実感します。私は精神科の合併症病棟という精神疾患と身体疾患を合併している方を対象とした病棟に勤務しています。実習では1人の患者さんを受け持ち、看護上の問題点を見出し、個別性のあるケアに繋げていきますが、臨床では複数の様々な患者様・状況での業務があり、多忙です。その中で看護師は、質の高い個別性のある看護の実践が求められ、日々精進しています。

現在もコロナウィルス感染症の影響により、実習の規模の縮小もしくは行えない状況、また自身の感染により欠席など、様々な制限を余儀なくされ不安の中だと思えます。どうか心を乱さず、着実に目の前の課題をクリアして、資格を取るという夢を仲間と支えあって実現して下さい。